

環境経営活動レポート

2024年6月1日～2025年5月31日(第23期)



福山産業 株式会社

2025/6/30 作成

目 次

- ① 環境経営方針 P.1
- ② 会社概要 P.2
- ③ 環境経営管理実施体制 P.3
- ④ 許可の内容 P.4
- ⑤ 収集運搬車両 P.5
- ⑥ 環境経営目標 P.7
- ⑦ 環境経営活動計画 P.8
- ⑧ 環境経営目標の実績 P.9
- ⑨ 環境経営活動計画の取組結果とその評価 P.10
及び次年度の取組内容
- ⑩ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 P.11
- ⑪ 代表者による全体評価と見直しの結果 P.11

① 環 境 経 営 方 針

基本理念

当社は、建造物解体工事業・産業廃棄物収集運搬業を業とし、環境との共生・調和・環境への取り組みを最重要課題として認識し、自ら責任を持ち、全社一丸となって環境との共生・調和に考慮した事業活動に取組み建造物解体工事業に伴う廃棄物を分別し再資源化(リサイクル)に取り組み循環型社会に貢献します。

産業廃棄物収集運搬車両の燃費目標達成車両台数の増大、環境負荷を継続的に改善していきます。

以上を達成するために、次のような経営理念として対処します。
当社は、持続的な発展のためにSDGs(持続可能な開発目標)に取り組んでいます。
当社は、SDGsを実施するためにCSR(企業の社会的責任)を認識しています。
当社は、CSRを実現するためにESG(環境・社会・企業統治)に取り組みます。
当社は、ESGの達成のためにEA21に取り組んでいます。

行動指針

① 事業を通じた環境保護

- 事業活動において、SDGs、CSR、ESG、EA21を通じ環境保護に寄与できるよう努めます。

② 資源・エネルギーの効率的利用

- 環境への負荷を認識し、省資源、省エネルギー、そしてグリーン購入に努めます。
- 産業廃棄物収集運搬時に常に使う燃料による排気ガスの環境負荷を認識し改善に努めます。
- 収集運搬業では収集運搬車両のエコ・ドライブに努めます。
- 再資源化(リサイクル)の向上に努めます。
- 太陽光発電設備設置に伴い、自家発電によるCO2排出削減に努めます。

③ 環境関連法規の遵守

- 関連する環境法規・条例及び当社が同意したその他要求事項を遵守します。

④ 継続的環境経営改善の実施

- 環境経営保全に関する目的・目標を設定し、取組み結果を見直すことにより、継続的な環境経営改善に取り組みます。

⑤ 環境啓発活動と地域・社会貢献活動の推進

- 環境活動レポートを公表する等、社内外に対して環境保護に関する情報の提供を行い、また啓発、教育活動を推進するとともに、地域社会の一員として地域・社会貢献活動の推進に努めます。
- 地域の環境美化に努めます。

※ 環境経営方針は、すべての従業員に周知します。

2024年 6 月 1日

福山産業 株式会社

代表取締役 福山 友和

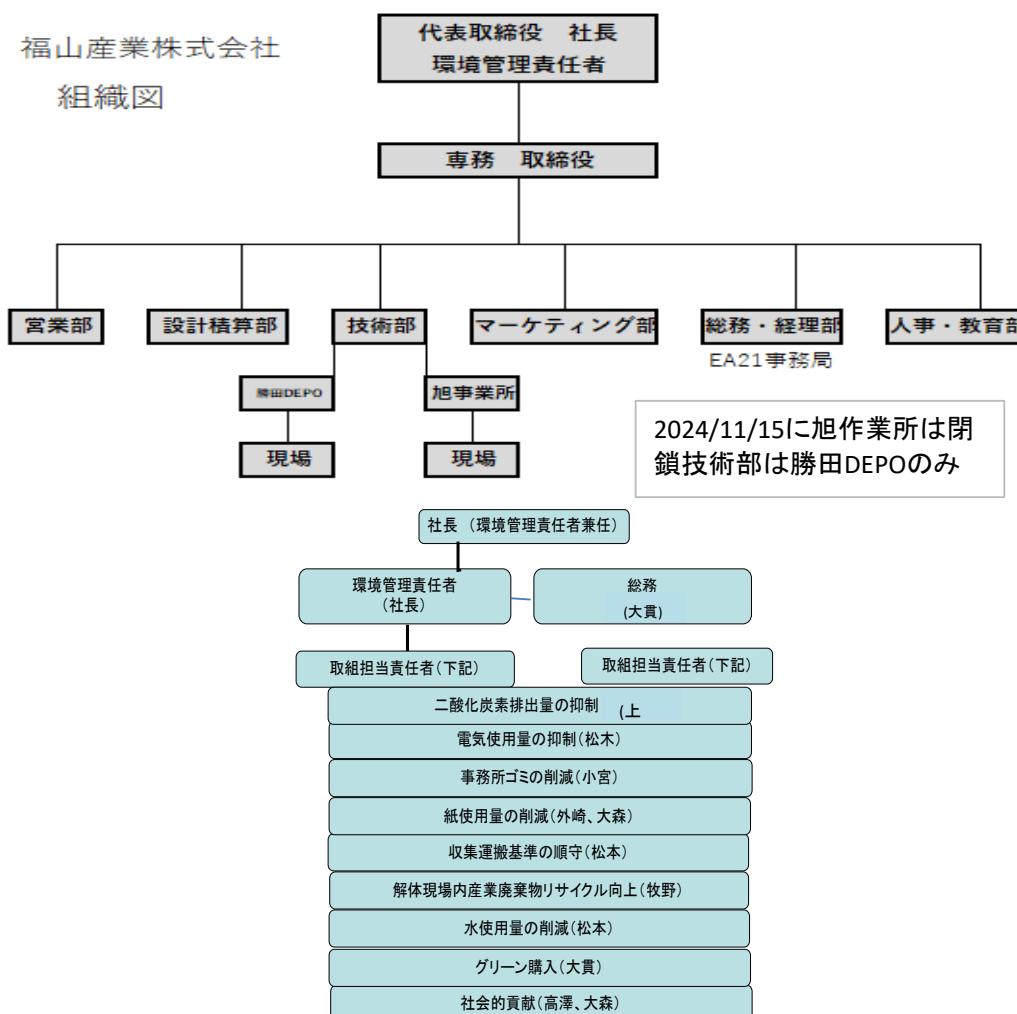
② 会社概要

商号	福山産業 株式会社	
設立	平成15年 1月 31日	
資本金	2,000万円	
売上高	537,20万円	
代表者	福山 友和	
環境管理責任者	福山 友和	
担当者 (EA21事務局)	大貫 琴音	担当者連絡先 e-mail:oonuki.k@fukuyamasangyo.co.jp
所在地	<本社> 川崎市高津区千年610番地5 <旭>横浜市旭区川井宿町59-4(2024/11/15閉鎖) <勝田DEPO>横浜市都筑区勝田町1294	
電話番号	044-740-6692	
FAX番号	044-740-6693	
従業員数	30名(2024/5/31時点)	
事業所	本社・旭事業所(2024/11/15閉鎖)・勝田DEPO	
事業内容	建造物解体工事業 / 産業廃棄物収集運搬業	
年解体工事件数	178 件	
収集運搬量(自社)	1,755.475t / 年	
収集運搬量(委託)	6,696.792t / 年	
収集運搬量(合計)	8,452.447t / 年	
回収してきたフロン類の量 (2022/4/1～2023/3/31)	25.93kg / 年	
フロン類破壊事業者に 引き渡した量 (2021/4/1～2022/3/31)	25.93kg / 年	

③ 環境経営管理実施体制

承認	作成
社長	大貫

福山産業株式会社
組織図



環境経営システムに関する 責任・権限		代表取締役社長 福山 友和
役職	責任および権限	
社長	1. 環境管理責任者の任命 2. 代表者による経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 3. 環境方針経営の制定 4. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 5. 環境経営システムの定期的見直しの実施 6. 社内情報の外部公開可否決定	
環境管理責任者	1. 環境経営システムの確立、実施および維持するための処置 2. 推進機関であるEA21EMS事務局の責任者として事務局運営 3. 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施責任者	
エコアクション事務局	1. 環境経営活動レポート作成準備管理、集計、環境管理責任者補佐	
取組担当責任者	1. 部門の環境経営システムの総括責任者	
社員	1. 環境経営目標の達成するために各自の役割を把握し活動する	

④ 許可の内容

建設業の許可			備 考											
都道府県及び政令都市	積替保管	許可所得年月日及び有効期限	許可番号	許可を受けた建設業										
神奈川県	有 	令和5年2月28日 令和10年2月27日	(特-4)第 67484号	解体工事業、建築工事業、土官工事業、石工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鉄筋工事業、ガラス工事業、防水工事業、熱绝缘工事業、大工工事業、とび・土工工事業、屋根工事業、鋼構造物工事業、板金工事業、塗装工事業、内装仕上工事業、建具工事業										
神奈川県	有 	令和5年2月28日 令和10年2月27日	(般-4)第 67484号	造園工事業										

産業廃棄物収集運搬業			許可番号	汚泥	廃油	プラスチック	紙くず	木くず	繊維屑	動植物性残渣	金属屑	鉱さい	ガラス・陶器屑	がれき類
都道府県及び政令都市	積替保管	許可所得年月日及び有効期限												
神奈川県	有 	令和2年4月20日 令和9年3月30日	第01403102476号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
東京都	有 	令和3年4月7日 令和10年4月6日	第13-00-102476号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
千葉県	有 	令和2年9月28日 令和9年9月27日	第01200102476号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
宮城県	有 	令和4年4月18日 令和11年4月17日	第0400102476号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
群馬県	有 	平成30年7月11日 令和7年7月10日	第01000102476号		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
茨城県	有 	令和3年9月16日 令和8年9月15日	第00801102476号		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
静岡県	有 	令和3年12月7日 令和8年12月6日	第02201102476号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

都道府県及び政令都市	積替保管	許可所得年月日及び有効期限	許可番号	特定有害産業廃棄物								
				鉱さい	廃石綿	ばいじん	燃え殻	廃油	汚泥	廃酸	アモルカリ	汚泥下水
神奈川県	有 	平成30年8月13日 令和7年8月12日	第01453102476号	●	●	●	●	●	●	●	●	
東京都	有 	令和3年4月7日 令和10年4月6日	第13-50-102476号	●	●	●	●	●	●	●	●	
仙台市	有 	令和2年3月16日 令和8年10月22日	第05452102476号		●							

第一種フロン類回収業			登録番号	回収の対象とする第一種特定製品の種類等及びフロン類の種類								充填しようとするフロン類なし			
都道府県及び政令都市	許可所得年月日及び有効期限			エアコンディショナー				冷蔵・冷凍機器							
				CF C	HCF C	HFC FC	CF C	HCF C	HFC FC	全てなし					
神奈川県	令和5年11月30日 令和9年11月29日	神(気水)第1-1552号	●	●	●	●	●	●	●						
東京都	平成19年12月6日 令和9年12月5日	第13103064号	●	●	●	●	●	●	●						
埼玉県	令和4年12月28日 令和9年12月27日	第19140109号	●	●	●	●	●	●	●						
千葉県	令和6年2月13日 令和11年2月12日	第12A142204号	●	●	●	●	●	●	●						

車両・重機・アタッチメント一覧表

No	自動車登録番号	メーカー	形状	車種	最大積載量
1	横浜 130 す 1018	いすゞ	ダンプ	4tS	3,850 kg
2	横浜 130 そ 1023	日野	ダンプ	4tS	3,550 kg
3	横浜 130 た 1021	いすゞ	脱着装置付コンテナ専用車	4tAR	3,900 kg
4	横浜 130 ち 1025	日野	脱着装置付コンテナ専用車	4tAR	3,950 kg
5	川崎 130 さ 1013	いすゞ	ダンプ	3tユニック	3,000 kg
6	川崎 430 に 1020	いすゞ	ダンプ	3tD	3,000 kg
7	川崎 480 え 6022	スズキ	キャブオーバ	軽トラ	350 kg
8	横浜 430 て 1027	いすゞ	キャブオーバ	2t平	2,000 kg
9	川崎 430 て 1026	いすゞ	脱着装置付コンテナ専用車	3tAR	3,000 kg
10	川崎 130 そ 1028	日野	脱着装置付コンテナ専用車	4tAR	3,650 kg
11	横浜 430 は 1031	いすゞ	ダンプ	3tD	3,000 kg
12	川崎 130 さ 1032	いすゞ	ダンプ	4tD	3,600 kg
13	横浜 430 と 1035	いすゞ	ダンプ	3tD	3,000 kg
14	横浜 430 ち 1034	いすゞ	脱着装置付コンテナ専用車	3tAR	3,000 kg
15	横浜 130 さ 1037	いすゞ	脱着装置付コンテナ専用車	4tAR	3,600 kg
16	川崎 483 せ 8800	スズキ	キャブオーバ	軽トラ	350 kg
No	自動車登録番号	メーカー	形状	車種	最大積載量
1	横浜 483 す 3300	スズキ	バン	エブリイ	860 kg
2	川崎 483 い 6600	スズキ	バン	エブリイ	350 kg
3	川崎 583 そ 2233	スズキ	箱型	アルト	– kg
4	川崎 483 い 2200	スズキ	バン	エブリイ	350 kg
5	横浜 538 も 5500	トヨタ	ステーションワゴン	シエンタ	– kg
6	川崎 583 さ 7700	スズキ	箱型	アルト	– kg
7	横浜 431 ま 1122	トヨタ	バン	プロボックス	350 kg
No	型式(製品名)	メーカー	機番	品名	パケット容量
60	SK70SRD-2	コベルコ	YT06-18453	油圧ショベル	0.25
100	SK135SRD-2	コベルコ	YY06-19527	油圧ショベル	0.45
110	SK30SR-5	コベルコ	PW14-48417	油圧ショベル	0.13
120	SK30UR-5	コベルコ	PR08-10020	油圧ショベル	0.13
130	SK30SR-5	コベルコ	PW14-47071	油圧ショベル	0.13
160	SK75SRD-3E	コベルコ	YT08-32033	油圧ショベル	0.25
170	SK30UR-5	コベルコ	PR08-10370	油圧ショベル	0.13
180	SK75SRD-3E	コベルコ	YT08-34222	油圧ショベル	0.25
190	SK30UR-6	コベルコ	PR09-21255	油圧ショベル	0.13
200	SK75SRD-3E	コベルコ	YT08-35442	油圧ショベル	0.25
210	SK28SR-6	コベルコ	PD03-07062	油圧ショベル	0.13
230	SK135SRD-7	コベルコ	YY09-055362	油圧ショベル	0.45
250SH	SK75UR-5	コベルコ	YR09-09336	油圧ショベル	0.25
260	SK75SRD-7	コベルコ	YT09-060348	油圧ショベル	0.25

車両・重機・アタッチメント一覧表

No	型式(製品名)	メーカー	機番	品名	最大荷重
勝田	02-8FD30	トヨタ	A8FDJ35-67755	フォークリフト	2,490 kg
旭01	FD20T3	TCM	2N103040	フォークリフト	2,000 kg
旭02	8FD15	トヨタ	8FD18-11716	フォークリフト	1,500 kg
No	型式(製品名)	メーカー	機番	品名	パケット容量
102	GV-30S	タグチ工業	2215	解体用つかみ機:回転フォーク	0.13
103	GV-30S	タグチ工業	2326	解体用つかみ機:回転フォーク	0.13
104	VXS-25	古河ロックドリル	—	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:大割	0.13
105	TM-40	TOKU	MC400201	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:小割	0.13
106	TNB-2E	東空販売	1125	ブレーカー	0.13
107	GV-30L	タグチ工業	—	解体用つかみ機:ハサミ	0.13
108	GV-30S	タグチ工業	2177	解体用つかみ機:回転フォーク	0.13
110	TM-35B	TOKU	MC35B0078	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:小割	0.13
111	TNH-190	東空販売	213515	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:大割	0.13
112	TNB-3NB	東空販売	12694	ブレーカー	0.13
188	GV-32S	タグチ工業	0135	解体用つかみ機:回転フォーク	0.13
201	GV-60S	タグチ工業	2324	解体用つかみ機:回転フォーク	0.25
202	TD-60A	TOKU	DS60A0135	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:大割	0.25
203	MC-60	タグチ工業	MC600173	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:小割	0.25
204	MP-60A	タグチ工業	MP60A0082	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:ベンチャー	0.25
205	GV-60S	タグチ工業	3148	解体用つかみ機:回転フォーク	0.25
206	GV-60S	タグチ工業	3321	解体用つかみ機:回転フォーク	0.25
207	GV-60S	タグチ工業	2484	解体用つかみ機:回転フォーク	0.25
208	D-60A	タグチ工業	D61A0093	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:大割	0.25
209	MC75B	タグチ工業	0077	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:小割	0.25
210	VS-9	フルカワ	2137	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:小割	0.25
211	S-60	オカダアイヨン	4125	ブレーカー	0.25
212	GV-60S	タグチ工業	2792	解体用つかみ機:回転フォーク	0.25
401	GV-120S	タグチ工業	—	解体用つかみ機:回転フォーク	0.45
403	MFP-120A	ユタニ工業	0185	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:ベンチャー	0.45
404	GV-120S	タグチ工業	2952	解体用つかみ機:回転フォーク	0.45
405	D-131A	タグチ工業	D131A0089	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:大割	0.45
406	OSC-52V	オカダアイヨン	SC6E316	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:小割	0.45
407	VS15	古河ロックドリル	2469	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:小割	0.45
408	VS15	古河ロックドリル	VS15002556	鉄骨切断機及びコンクリート圧碎機:マグ小割	0.45

⑥ 環境経営目標

No	環境経営方針項目	基準値	年度目標				
			2023年度 22期 (2023.6.1～2024.5.31)		2024年度 23期 (2024.6.1～2025.5.31)		2025年度 24期 (2025.6.1～2026.5.31)
1	二酸化炭素 排出量の削 減	電気	CO ₂ 排出量 200000 ※～22期基準 値	kg-CO ₂ /年	20,000 kg-CO ₂ /年	190,000 kg-CO ₂ /年	
		ガソリン	100,000		12,000	11,000	kg-CO ₂ /年
		軽油	kg-CO ₂ /年		98,000	97,000	
		燃費目標達成車 両台数の増大	軽油燃費 5.00 km/L	5.00 km/L	5.00 km/L	4.75 km/L	
2	一般廃棄物排出量の削減	90 kg/年	90 kg/年	100 kg/年	100 kg/年	140 kg/年	
3	産業廃棄物の再資源化(リサイクル) リサイクル法に基づく (木くず、コンクリート破片、アスファルト・ コンクリート破片) 自社分	% / 年	70%	70%	70%	70%	
3	産業廃棄物の再資源化(リサイクル) リサイクル法に基づく (木くず、コンクリート破片、アスファルト・ コンクリート破片) 委託分	% / 年	70%	70%	70%	70%	
3	産業廃棄物の再資源化(リサイクル) リサイクル法に基づく (木くず、コンクリート破片、アスファルト・ コンクリート破片) 合計分	% / 年	70%	70%	70%	70%	
4	水使用量の削減	水道使用量 300 m ³ /年	300 m ³ /年	350 m ³ /年	350 m ³ /年	360 m ³ /年	
5	化学物質の削減	(PRTR法の対象物質は取り扱っていない)					
6	グリーン購入の推進	グリーン購入 マニュアルの作成	マニュアルに基づく 注文の実施	マニュアルに基づく 注文の実施	マニュアルに基づく 注文の実施		
7	環境配慮サービスの提供	紙使用量 90,000 枚/年以下	90,000	90,000	40,000		
		現場周辺清掃回数 50 回/年	50	50	50		
		エコキャップ回収量 3,500 個/年	3,500	3,500	7,000		

注)二酸化炭素排出係数はR5年東京電力実績の0.457kg/kWhを適用した。

⑦ 環境経営活動計画

環境経営目標項目		取組項目	取組内容
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量の削減	空調の適正管理	・暖房温度は22℃で設定 ・冷房温度は28℃で設定
		照明の適正管理	・不在場所や休憩時の消灯
		エコドライブの励行	・アイドリングストップの遵守 ・急発進・急停止の抑制
	収集運搬車両の燃費向上	各車両の燃費向上	・給油時の燃費の確認 ・燃費計算後の反省項目の確認
		燃費目標達成車両台数の増大	・燃費優良車両の情報公開 ・提供情報の有効利用
		定期的車両点検整備	・定期点検日の設定と実施 ・自動車タイヤ空気圧の適正化 ・日々のメンテナンスの実地
	一般廃棄物排出量の削減	搬出ゴミの分別	・分別基準の設定と分別ゴミ入れの設置 ・分別ゴミ入れへの遵守
		搬出ゴミのリサイクル	・分別ゴミのリユース ・分別ゴミの適正な業者への引き渡し
産業廃棄物の削減	産業廃棄物の分別		・分別廃棄物入れへの遵守 ・産業廃棄物分別マニュアルの確認
産業廃棄物の再資源化	産業廃棄物のリサイクル		・分別廃棄物入れへの遵守 ・分別ゴミの適正な業者への引き渡し
水使用量削減	節水コマや蛇口の工夫		・水道蛇口の漏水防止 ・トイレ使用時の適正使用
	解体作業中の散水手順の遵守		・解体工事散水手順書の更新 ・手順書に基づく散水方法の遵守
グリーン購入の推進	グリーン購入マニュアルの作成		・グリーン購入マニュアルの確認
	マニュアルに基づく注文の実施		・備品購入時のマニュアル確認
環境配慮サービスの提供	紙使用量の削減		・情報漏えい回避資料以外の裏紙使用 ・資料の電子文書化の推進
	現場付近の清掃		・現場付近の清掃基準の作成 ・基準に基づく清掃の励行
	エコキヤップの回収		・自販機横にエコキヤップ回収BOXの設置

⑧ 環境経営目標の実績(2024年6月1日～2025年5月31日)

No	環境経営方針項目	基準値	目標	実績	達成	
1	二酸化炭素排出量の削減	電気	CO ₂ 排出量	20,000	19,017	95%
		ガソリン	130,000	12,000	9,475	79%
		軽油	kg-CO ₂ ／年	98,000	87,653	89%
		燃費目標達成車両台数の増大	軽油燃費			
			5.00 km／L	5.00	4.75	95%
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	100 kg／年	100	139	139%
4	産業廃棄物の再資源化(リサイクル) リサイクル法に基づく (木くず、コンクリート破片、アスファルト・コンクリート破片) 自社分	% / 年	70%	80%	114%	
4	産業廃棄物の再資源化(リサイクル) リサイクル法に基づく (木くず、コンクリート破片、アスファルト・コンクリート破片) 委託分	% / 年	70%	67%	96%	
4	産業廃棄物の再資源化(リサイクル) リサイクル法に基づく (木くず、コンクリート破片、アスファルト・コンクリート破片) 合計分	% / 年	70%	70%	100%	
5	水使用量の削減	水道使用量 350 m ³ ／年	350	357	102%	
6	化学物質の削減	(PRTR法の対象物質は取り扱っていない)				
7	グリーン購入の推進	グリーン購入マニュアル	マニュアルに基づく注文の実施	マニュアルに基づく注文の実施	○	
8	環境配慮サービスの提供	紙使用量				
		90,000 枚／年以下	90,000	28,500	32%	
		地域清掃回数				
		50 回／年	50	50	100%	
		エコキヤフ [®] 回収量 3,500 個／年	3,500	7,439	213%	

注)二酸化炭素排出係数はR5年東京電力実績の0.457kg/kWhを適用した。

⑨ 環境経営活動計画の取組結果とその評価及び次年度の取組内容

目標項目		今年度の取組内容	取組結果とその評価	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量の削減	空調の適正管理	概ね達成できた。	達成したことから、更なる削減を目指すために目標値を変更。継続して実施していく。
		照明の適正管理		
		エコドライブの励行		
	収集運搬車両の燃費向上	各車両の燃費向上	年始期の古い車両や走行距離の多い車両もあるため、エコドライブだけでは解決できない問題もある。日頃のメンテナンスや乗り方にも気を付けて次年度目標達成を目指す。目標値を再設定する。	エコドライブの徹底。買い替える時は環境にやさしく燃費のいい車両を検討する。目標値を変更する。
		燃費目標達成車両台数の増大		
		定期的車両点検整備		
	一般廃棄物排出量の削減	搬出ゴミの分別	内勤者が増えたことで目標値の見直しを行ったが、まだまだ目標達成は難しく感じた。再度目標値を再設定する。	できるだけゴミが出ないように、再利用できるものを使用する。目標値を変更する。
		搬出ゴミのリサイクル		
	産業廃棄物の削減	産業廃棄物の分別	直接の再資源化ではないが分別することにより再資源化の一端を担う	継続して実施する。
	産業廃棄物の再資源化	産業廃棄物の分別	直接の再資源化ではないが分別することにより再資源化の一端を担う。	収集運搬量の低下によるものだと考えられるので、継続して実施する。
水使用量削減		節水コマや蛇口の工夫	洗車車両増加により使用量が大幅に増加し目標の見直しを行ったが、まだまだ目標達成は難しく感じた。再度目標値を再設定する。	目標値を変更して行う。節水コマや蛇口の工夫、散水手順の遵守は継続して実施する。
		解体作業中の散水手順の遵守		
グリーン購入の推進		グリーン購入マニュアルの作成	グリーン購入マニュアルを作成し、それに基づき備品購入した結果、効果的に出来た。	継続して実施する。
		マニュアルに基づく注文の実施		
環境配慮サービスの提供		紙使用量の削減	概ね達成できた。	達成したことから、更なる削減を目指すために目標値を変更。継続して実施していく。
		現場付近の清掃	現場近隣周辺清掃マニュアルを活用し、達成出来た。	継続して実施する。
		エコキャップの回収	概ね達成できた。	自販機は横浜営業所廃止によって昨年より減っているが、達成したことから、更なる削減を目指すために目標値を変更。継続して実施していく。

⑩環境関連法規への違反、訴訟等の有無

- ・ 環境関連法規の遵守状況をチェックした結果違反はありません。
- ・ 関係当局から違反の指摘は過去三年間ありません。

※環境関連法規の取りまとめ表参照

⑪代表者による全体の評価と見直しの結果

環境方針、目標を定めて社員全員が内容を理解し取り組むことができました。

一人一人の取り組み意識向上が感じられました。

さらなる実践を継続していきたく思います。